

# 笑ってごらん

第 564 号 H. 28. 11. 2 発行

～今日のことば～

覚悟して頑張ったら想像以上に成長して、  
強気になれる！

(上戸彩)

◇◆28・29日の両日、創立60周年記念文化祭が行われた。今回は『一笑健明 ～ Dream みんなに笑顔と勇気を ～』のテーマの下、例年より趣向を凝らせ、元気よく賑やかに執り行った。初日は生徒の皆さんのステージ発表。歌・ダンス・映像・劇など様々な取り組みを楽しく見せてもらった。◆また、創立60周年記念ゲストとして卒業生民謡歌手：吉富今日子様ならびに三味線弾き手：高橋浩寿様をお招きして民謡ならびに津軽三味線演奏を聴かせていただいた。お二人を校長室にお迎えした際、お互いに懐かしさを隠しきれない状況で、もう二十年以上経っているのに、気分は一足飛びに当時の先生と生徒にフィードバックしてしまい、昔話に花を咲かせた。着物に着替え三味線を手にされた頃合いからお二人の目が「プロの目」に変わった。そして本番。三味線演奏で幕開け。その後、吉富様の透き通った唄声に魅了された。さすが数多くの民謡全国大会でグランプリを受賞された唄声である。また、三味線弾き手として随行された高橋浩寿様は、最近津軽三味線全国大会（日本武道館）で全国3位になられた方とお聴きし、ビックリ。「津軽じょんがら節」の演奏では力強い中に透き通った音色をお聴かせいただいた。会場の反応が良かったことにホッとした。本当に素晴らしいステージを魅せていただいた。終了後お二人に感想をお聴きしたら、特に高橋様は三味線を弾き始めた瞬間の生徒たちの反応が思った以上に良く、ついつい調子に乗ってしまい、いつも以上に頑張っただけのこと。企画段階では私自身「高校生に民謡が受け容れられるだろうか」との心配が大きかったが、その心配をよそに、会場内には割れんばかりの拍手がわき上がった。お二人の技量の高さに引き込まれた瞬間であった。こうして本校の卒業生は様々な分野で尽力し、第一人者となっている。生徒諸君も今取り組んでいることの何が功を奏するかわからないので、選り好みしないですべてのことに真摯に取り組んで欲しい。常に自分磨きの思いを大切に！時に、三味線って重いんだね。エレキギター並の重さだったよ。◆2日目。前日に引き続きのステージ部門、米盛病院のドクターカー展示協力も得ての展示部門、そして、地元飲食店の出店協力も得ての模擬店部門を実施。天気にも恵まれ、校外からの来場者も多く、すこぶる大盛況であった。模擬店も12時前に「売り切れ」店続出。ちなみに、専門課程の「手浴」コーナーは予想を遙かに超える400名もの来場者を得、まさにてんでこ舞いだっただけのこと（とっても気持ち良かったよ）。終わってみれば、まさにテーマ通り、笑顔に満ちた2日間だった。



左：高橋浩寿様

右：吉富今日子様

## 感謝道

◇◆新任者紹介。本日付でお二人の職員が着任。高校副事務長として宮之原智さん、及び、給食センター調理師として大重亨さん。宮之原さんは永年にわたり銀行員として尽力されてきた。また、大重さんは複数の病院で調理師として勤務された経験がある。ともに今後は鳳凰生の為に尽力して欲しい。◇◆2～3日前から急に気温が下がってきた。「下がった」といっても22～23℃あるのだが、日中30℃超えの日々が長く続いたからか体感温度への影響は大きいみたいである。衣服の調整も本当に難しい。風邪などひかぬように、外へ出かける際は一枚多く羽織るなどの工夫が必要だろう。私の腰（ヘルニア）も徐々に回復に向かっているが、用心せねば。